

日本国際経済学会・関西支部研究会

(於：関西学院大学大阪梅田キャンパス)

2015年7月25日(土)

開放経済の深化が失業率および物価に及ぼす影響  
—企業の異質性, Fair Wage, および需要の価格弾力性—

西山博幸<sup>1</sup> 吟谷泰裕<sup>2</sup>

本報告では、企業の異質性および fair wage-effort mechanism を考慮に入れた一般均衡モデルを提示する。そして開放経済の深化が物価変動を通じて失業率および賃金（非生産財を価値基準財としたときの実質賃金）にどのような影響を及ぼすのかを分析する。主な結果は次の通りである。

1. 輸送費  $\tau$  の減少が失業率に及ぼす影響は事前の  $\tau$  の水準に依存する。事前の  $\tau$  が大きいときには  $\tau$  の減少によって失業率は上昇するが、事前の  $\tau$  が小さいときには  $\tau$  の減少が失業率の下落を引き起こす。
2. 差別化財に対する需要の価格弾力性  $\sigma$  の下落は、失業率を上昇させる。
3. 輸送費  $\tau$  の減少が賃金に及ぼす影響は、生産財に対する総需要の物価弾力性  $\eta$  の水準に依存する。すなわち  $\eta$  が 1 を下回るときには  $\tau$  の減少によって賃金は下落するが、 $\eta$  が 1 であるときには  $\tau$  が減少しても賃金は変化しない。そして  $\eta$  が 1 を上回るときには  $\tau$  の減少によって賃金が増加する。ただし  $\eta$  が 1 を上回るときでも、 $\eta$  に比べて  $\sigma$  が十分に小さければ、 $\tau$  の減少によって賃金は下落し、同時に物価が増加する。

---

<sup>1</sup> 兵庫県立大学経済学部 (Email: nisyama@econ.u-hyogo.ac.jp)

<sup>2</sup> 関東学院大学経済学部 (Email: gintani@kanto-gakuin.ac.jp)